

真の平安に来る

憂い

打ちひしがれた霊は骨を枯らす。(箴言第 17 章 22 節後半)

わたしたちが生きているこの世界の現象は、見えない実際が見える部分として現れます。
人が笑顔でいれば心が喜びになるわけではありません。心の喜びの実際があれば顔に喜びが表れます。
世界が平和になれば心に平和が訪れるのでしょうか。いいえ、人の心が平和であれば世界は平和です。
人の心にあることは、次第にそして最後には見えるかたちになります。
人のいちばん奥の見えない部分は霊です。人には霊があります。
心理的になんの問題もないと思っけていても、打ちひしがれた感じがあるなら、霊を顧みる必要があります。

ああ、わが魂よ、なぜうなだれているのか？ なぜわたしのうちで思い乱れるのか？ 神を待ち望め。

(詩編 42:11 前半)

わたしたちの内側のどこかに言いようのない無力感、透明でないうっとうしさ、うなだれること、思い乱れることがあるなら、それは悪い知らせではありません。正常ではないことを知る感覚が生きているしるしです。
なぜなら、わたしたちの深い部分・霊には神を必要とするうめきがあるからです。

圧迫されている人たちを解放して去らせ、(ルカによる福音書第 4 章 18 節後半)

家庭内不和、職場のいざこざ、戦争など乱暴な出来事は外側のことで思いをいっぱいにさせてしまい、内側の深い感覚を消してしまいがちです。
しかし、外側の圧迫がある時もない時も、内側の問題を解決し、真に自分を圧迫しているのは何かを見だし、真の解放を得る必要があります。

平安

わたしは平安をあなたがたに残す。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるようなものではない。(ヨハネによる福音書第 14 章 27 節前半)

わたしたちのいちばん奥深い見えないところが真の平安・平和で満たされるとき、わたしたちの魂、わたしたちの顔、外側の生活は平和となり、わたしたちの身近な人たちもその平和に触れるようになります。
このような根本的な平安を与えることのできる方がいます。
この方は神が人となられ、人の罪を解決し、人の中に入ることができる霊と成られた主イエス・キリストです。

あなたがたがわたしの中で、平安を持つためである。世にあつて、あなたがたには苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に打ち勝っている。(ヨハネによる福音書第 16 章 33 節)

主イエスは、わたしたちの中に入り、わたしたちも彼の中に入ることができる道を開いてくださいました。
この世、社会、世界はそのような平和を持っていませんし、それを与えることもできません。
この世が期待させる平和は一時的、偽り、外側のものであり、見えない部分を解決することもできません。
この世には苦難があるだけです。特に平和を持つ人、内側が平和である人に敵対させます。
しかし、主イエス・キリストは十字架上で人の悪魔的な部分を破壊し、真の平和の人を生み出し勝利されました。

なぜなら、彼ご自身はわたしたちの平和であって、両者をついにし、そして敵意である隔ての中垣を取り壊し……そして彼は来られて遠く離れていたあなたがたに、平和を福音として宣べ伝え

(エペソ人への手紙第 2 章 14 節,17 節前半)

主イエス、この方は外側では十字架につけられましたが、十字架の奥の見えない部分、見えない領域で重大なことを成し遂げました。

隔ての中垣を取り壊したことは、善悪によって生み出される敵意を破壊したことです。

どちらが正しいかという規定・判断は敵意を生み出し、批判、訴え、争い、抗争、戦争を生み出します。

主はそれらを十字架で終結し、ご自身を平和として、命として、福音としてわたしたちに与えられました。

このことは時間からも、距離からも、立場からも、資格からも遠かったわたしたちにも及ぶようになりました。

来る

さあ、エホバに立ち返ろう。彼はわたしたちを…癒やし…包んでくださるからだ。彼は…わたしたちを生かし…それゆえ、わたしたちは知ろう。エホバを知ることを追い求めよう。彼が現れ出るのは夜明けのように確かであり、彼は雨のようにわたしたちに臨み、後の雨のように地を潤す。(ホセア書第 6 章 1-3 節)

わたしたちはどうしたらその平和、平安、安息を得られるのでしょうか。

立ち返るだけです。内側深いところの感覚に素直に向きを変え、それが欲しかったと追い求めるだけです。

エホバ(現在の主イエス)彼は、癒やし、包んでくださいます。そして内側に実際の夜明けが現れます。

すべて労苦し重荷を負っている者は、わたしに来なさい。そうすればわたしはあなたがたに安息を与える。

(マタイによる福音書第 11 章 28 節)

頼りになるのは自分だけだと頑張り続けるとき、重荷はさらに重くなるようです。

正直に、「これは労苦です、もう重いです」と認めて、そのまま主に来るだけです。

条件はありません。何か用意したり、努力した証しも要りません。

渴いている者は来たれ。欲しい者は、命の水を値なしに飲むが良い。(啓示録 22:17 後半)

聖書の最後の章の約束が、最後の確認をしてくださっています。

三一の神、父なる神、子なるキリスト、霊なる神、人の中で命となる神が待ってください。

「来なさい」、それに応じるだけです。

憂いは消え、平安がそこにあります。

1 (725 英1050)

かなしみとやみから、わたしは来ました

よろこびとひかりに、おお、主イエスよ!

そくばくから解かれ、やまいをもらさされ、

つみからあなたへと、主よ、来ました!

この世のろう苦から わたしはきました
 じゅう字架のすくいに おお、主イエスよ
 しつ望から希ぼうに おそれからやすきに
 なげきからさん美に 主よ、来ました!

たかぶり、不へいから わたしは来ました
 まったきしゆくふくに おお、主イエスよ
 おのれからはなれて あなたのあいに住み
 つばさ張り、真っすぐ 主よ、来ました!

2 マタイ 11 : 28

すべて ろうくし おもにを負って
 い るものは わたしに き なさい
 そうすれば わたしはあなたがたに
 あんそくを あたえる

すべて労苦し重荷を負っている者は、わたしに来なさい。

そうすれば、わたしはあなたがたに安息を与える。

2022 . 4 . 24

御言葉

すべて労苦し重荷を負っている者は

わたしに来なさい。

そうすれば

わたしはあなたがたに安息を与える

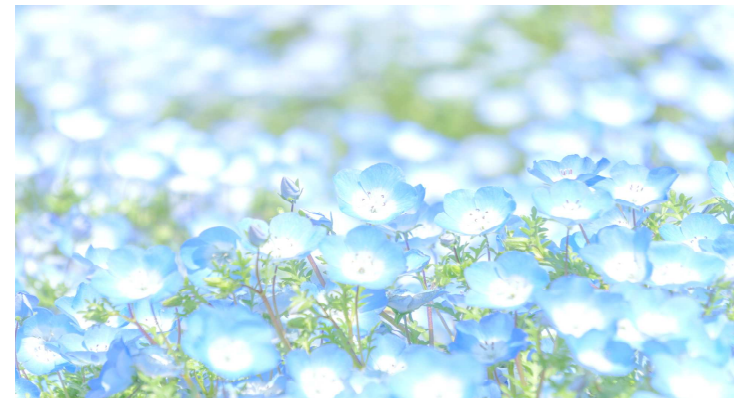
(マタイによる福音書第 11 章 28 節)



第10回オンライン福音ルーム

詩歌

真の平安に来る



千葉に在る教会